



有限会社オーシャン²¹
取締役研究所長
酒 元 謙 二

1 期待する沖縄から期待される沖縄へ
経済の活性化及び失業率の改善は、
バブル崩壊後、特に近年の日本の政
治においては最重要となつてゐる課
題である。その具体策としては、ベン
チャー企業の育成、中小企業の経営
強化拡大支援、創造性のある人材
育成などがあげられる。それらは言
うまでもなく、バブルのはるか以前
から沖縄が県を挙げて必死に取り
組んできた問題である。しかし、県の
経済はますます深刻な状況に陥り
つゝある。沖縄県の施策は、このまま
でいいのだろうか。良くないとしたら
それに代わるビジョンはあるのだろ
うか。県の各機関の担当者と会つた
びにその一生懸命さに頭が下がる思
ひになることがたびたびある。しかし、
現実の結果は不十分である。従来の
条件のもとでも（充分満足できる
とまでは言わないが）企画の工夫で
いままでよりもよい結果が出せるの

ではないか。これが私共「オーシャン
21」の最も大きなテーマである。
世紀が移ろつてゐる今、新し
い「視点・視座・視野」をもつて、「中
央からのワケに沿つて指示を待つ沖縄」
でなく、沖縄の地になつて、全体戦略
と各施策を提案し、「中央からの支
援を活用すべく攻める沖縄」、つま
り県として何かを待つ「期待する沖
縄」でなく何かを創造する「期待さ
れる」沖縄を目指す「時」ではない
だろうか。斯く言う私は沖縄に住み
はじめて4年、今後21世紀をずっと
沖縄と共に生きたい「シマナイチャー」
予備軍である。

2 具体的な数値目標
「オーシャン21」が経済振興策の一
環として起業家育成を手伝い始め
て3年になる。しかし、ずっと不思議
に感じることがある。それは未
だに具体的な数値目標がわからな

21世紀の沖縄、夢と現実と可能性!!

いのである。初年度（3年前）の起業
家育成セミナーを終了して出した
結果は、起業¹²社、雇用創出数⁶⁴
名であつた。しかし、この結果が良か
つたのか悪かつたのか評価のしようが
なく、次年度への取り組みも前年に
対し、より良くするためにガバールし
てきたのである。

年間1400名の雇用創出、
140億円のGDP向上（これは
協力可能な県の各機関との連携を
前提に）現在「オーシャン21」が独自
に立てた年次目標である。この数値
の根拠は全くでたらめと言つては
なく、私なりに可能な範囲の情報を
収集して作ったものである。

3 施策実行型から目標達成型へ
経済活性化（GDP）、雇用創出
における県全体の年度ごとの数値
目標が具体的に示されれば、各機
関ごとの施策の優先順位、重要度、
予算のバランスが見えやすくなるの
ではないか。当然、直接効果の出る
もの、間接的な支援につながるもの、
そのためのインフラ整備となるもの
と言つた政策上の配慮は必要だが、
肝心なのは施策を実行することを
主にするのではなく目標を達成す
ることを主にするべきではないか。そ
の結果、企画実行段階では、費用対
効果、時間対効果、労働力対効果が
ポイントになる。そして、年を追ふこ
とにより効果的な施策づくりのノウ
ハウが見えてくるはずである。

4 町おこしと現場型プロモーター
育成
21世紀に向け新しい沖縄県づく
りの現実的かつ効果的な方法として
私が期待しているのは、各市町村に
最低2名の現場型プロモーターを
育成することである。県づくりで最
も重要な要素に「企画提案能力、
組織人材、情報収集及び分析
能力、スピードと決断力、資金
がある。これは市町村単位の町お
こし（現場活動においても同様で
）の全てがそろわないと各事業が
成功しない場合が多い。ただ、県単
位の施策との最大の違いは、現場の
各活動がダイレクトに反応をひき出し
（即（数値など）結果が現れるため
担当者に言い訳の余地がない点であ
る。必然的に「」をベースにした
プロモーター能力が飛躍的に向上す
る（有能な人材を育成できる）可能
性を秘めている事になる。最近町お
こしを多く手伝つチャンスに恵まれ
前記のような方法が、沖縄の県づく
りにおいては、最も現実的ではない
だろうかと思つてゐる。最後に、沖
縄のこの方法が（成功した場合）、全
国の都道府県のモデルにならないか
といふ期待もある。

